

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



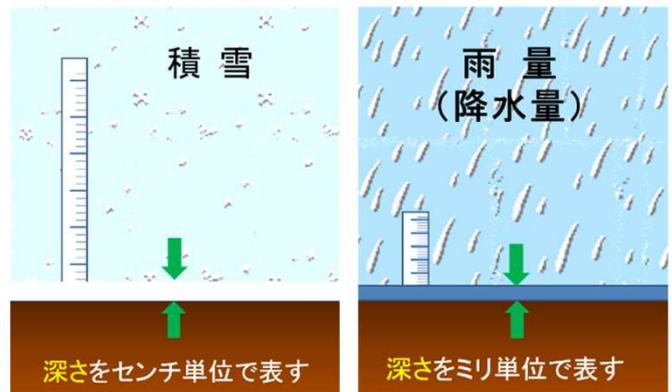
Yoshiaki Yano

雪が積もったぞ！ その深さ、どう測る？

2月も半ばになりました。東京の平年値(1991年～2020年の平均)を見ると、積雪1cm以上積もった最も遅い日“終日”の平年は2月10日、積雪0cmでは2月13日です。また、雪が降る最も遅い“終日”は3月9日となっています。ただ、3月に入っても大雪が降ることがあり、1969年3月12日、東京ではなんと33cmの大雪が降りました。3月なのに、ここまで積もるとは驚きです。

雪が降ったとき、地面がどのような状態になれば“積雪”とみなされるのでしょうか？ 気象庁の基準では、周辺の地面の半分以上が白く雪で覆われた場合、“積雪あり”となり、このときの観測値は“0cm”と記録されます。その後、さらに雪が降り続いて積もった深さが“積雪”となり、これをcm単位で測ります。雨も同様な考えで測られています。降って溜まった雨水の“深さ”をmm単位で測ります。“雨量”という名に“量”という文字が入っていますが、実際には“深さ”を測っていますので、誤解ないようにしましょう。

気象庁では、右図のような積雪計を用いて観測しています。レーザー光線を地面に当て、反射してきた光の位相のズレを測ることで、雪の深さを正確に測ることができます。



皆さまも、雪が降り積もった際には、物差しを雪に垂直に挿して、わが家の積雪を測ってみませんか？ 建物や木々などに影響されていない、やや開けたところで測るようにしましょう。



また、“降雪”とは、ある時刻から別の時刻までに新たに積もった雪の深さを指します。これもcm単位で表され、例えば「09時～21時までの降雪量は0cm」や、「明日の降雪量は0cmの見込みです」といった形で伝えられます。

雪は、“ちり”や“ほこり”などを核として、大気中の水蒸気が凍ることで氷の結晶となります。この氷の結晶にさらに水蒸気が付着していき、雪の結晶が成長していきます。雪の結晶が地上に落ちる途中で溶けると雨になりますが、溶けずにそのまま落ちてくると雪となります。



画像提供：奈良地方気象台

雪の色が白く見えるのは、光の乱反射によるものです。一つひとつの雪の結晶は透明ですが、細かい結晶が折り重なることで光が乱反射し、いろいろな波長の光が重なって白く見えるようになります。

雨と雪が混じったものを“みぞれ”と呼ばれています。上空から雪が降ってくる途中、地上近くの気温が高いと雪がとけて雨になりますが、一部が溶けずに雪のまま落ちてくると、“みぞれ”になります。観測上、みぞれは雪と同様に扱われ、初雪や終雪の日に含まれます。

大雪のおそれがあるときには、大雪注意報や大雪警報が発表されます。葛飾区と雪の多い新潟市では、次とおり発表の基準には差があります。

	大雪注意報	大雪警報
葛飾区	12時間の降雪が5 cm以上	12時間の降雪が10 cm以上
新潟市	6時間の降雪が15 cm以上	6時間の降雪が30 cm以上

注意報は災害の発生するおそれがあるとき、警報は重大な災害の発生するおそれがあるときに発表されますが、地域によって基準は大きく異なります。この表から、葛飾区では比較的少ない降雪でも注意報や警報が発表されることから、新潟市に比べ地域社会が雪に対して如何に脆弱であることがわかります。今年もまだ雪が降るかも知れません。事前の準備をして、安全に過ごしましょう。

僅かな積雪であっても、歩行中の転倒には十分な注意が必要です。車の運転では、適切な装備が不可欠です。ノーマルタイヤでの走行は危険であり、スリップ事故の原因にもなります。立ち往生や渋滞を引き起こすこともありますので、雪が降ったときにはスタッドレスタイヤやチェーンを装着するなどと共に、適切な判断・行動も心掛けていただければと思います。

問い合わせ先 危機管理課計画係 電話 3993

令和7年2月10日
危機管理課発行